

教会レポート

美浜オレンジライン散策

十一月四日(月)は美浜オレンジラインへ散策に行きました。河和口駅から知多奥田駅までのコース、自然を觀賞しながらの散策はとても快適です。天候も良好で汗ばむ日でしたが、知多半島の良さを改めて感じました。



キッズ祝福式

十一月十日(日)は子供たちのために祝福のお祈りの時を持ちました。幼くても元気一杯で、教会メンバーに見守られながら教会学校とキッズプログラムに参加しています。これからも健康が守られ怪我や事故に遭遇することなく、伸び伸びと成長して行けますように聖書のことばが読まれお祈りしました。



お菓子のプレゼントに笑顔が溢れました。

午後からは車で四十分の東海市大池公園へ行って遊具で遊び、動物も見学出来ました。

もう少しすれば紅葉も楽しめそうでした。



会堂大掃除

十一月十七日(日)は年に一度の大掃除を行いました。来年は現会堂で三三年目となりますが、大きな破損や災害からも守られ感謝です。



クリスマスイルミネーション

十二月一日からのアドベント(待降節)に備えて、二四日(日)に飾り付けをしました。

「光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。」



(ヨハネ一章五節)

クリスマス★ストーリー

奇跡のふき

イレナ ジャビゴバ

何年も前ですが、ロシア南部の小さなボランティアセンターに住まい、そこで働いていた時のことです。クリスマスの一週間前に、猛吹雪によってその地域の基幹的な送電線が切断されてしまいました。停電がどれほど続くのかは誰にもわかりません。まず天候が良くなるならいいことには、ケーブル修理のために被害のあった山中の地域に入ることさえできないのです。

その間、誰もが何とか生き延びようと頑張りました。大型スーパーはすべて閉店となり、小さな店ではロウソクのあかりと発電機が頼りでした。暖房が使えず、家々はすぐに冷え切り、電気コンロしかない人たちは、アパートの外で火を起こして料理しました。町の貯水槽が空にな

ると、水も切れました。感謝することになり、夜になるといくらか雪が降ったので、その雪を集めては溶かし、掃除や洗い物のために使いました。夜にはロウソクのあかりに集まり、ストーリーを話したり、歌を歌ったり、イエスの生誕場面のための人形を作ったりしました。

何日経っても電気が復旧する兆しはありません。とうとうクリスマスイブとなり、クリスマスツリーにライトを飾っても仕方がないとか、昔のようにロウソクをツリーに飾ってはどうかと話し合っていました。でも同僚の一人は動じることなくこう言ったのです。「ライトを飾って、コンセントにつないでおくよ。神は奇跡を行って、クリスマスに間に合うように電気を復旧させることができるのだから。」

クリスマスイブの夕食の支度をしている時にも、まだ電気はつきませんでした。イブの夜、準備がすべて整い、食卓の用意も済んで食事が並べられました。私たちは頭をたれて祈り、食べ物があること、また、キリストが幼子となって地上に来

てくださったことに感謝を捧げました。そして、祈り終えて目を開けると、信じられないことに、家中のあかりがついていたのです。クリスマスツリーのライトもともり、はなやかに輝きを放っていました。まさに絶妙のタイミングです。神が自ら、奇跡的にスイッチをお入れになったわけではないとしても、このタイミングで電気がつくようにと一役買われたように思えるのです。

イエスは言われた。



「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光をもつのです。」 (ヨハネ八章十二節)

もし、神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。

(一ヨハネ一章七節)
【クリスマスラブよ】